しまねの社会教育 基礎講座 ＜益田会場＞

「集って」「楽しむ」からの動きをつくる

R６・７・５(金)：益田合同庁舎

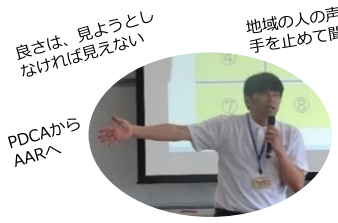
【講義】社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと

益田教育事務所　企画幹　福原 英忠

１．社会教育の基礎知識
（Q．社会教育と聞いて思い浮かぶことは何ですか？）
・社会教育法第2条から（社会教育の定義）
・学校教育と社会教育の比較から
・社会教育と生涯学習の関連
・社会教育の歴史と現在の動き

３．社会教育の担い手は？
〇社会教育施設（公民館・図書館・博物館等）
〇社会教育主事（社会教育の応援団）、社会教育士
〇社会教育委員
〇スポーツ推進委員

２．しまねの社会教育
（特色）・公民館等施設での人づくり　・地域学校協働活動の先がけ
・教育魅力化の推進役　・教員籍社会教育主事が多い
・ふるさと教育の推進
（目指すところ）「未来に対して 主体性をもって生きる人づくり」



４．社会教育を進めるみなさんへ
（必要な力）コーディネート力、コミュニケーション力、ファシリテート力、企画立案力、プレゼンテーション力
■住民の当事者意識の醸成を
“押しつけがましくなく なんとなく乗せられて いつの間にか地域のことを考えるようになる”
そのために、集わせる仕掛け　楽しませる技　質の高い「学びの場」
（地域課題に向き合い、自己実現に向かう）やる気を高める

（講義資料より）

【事例発表・事例検討】「わらわら！二条版　多世代交流みんなでわらぞうりづくり」

益田市二条公民館 主事　豊田 夏希 氏　（令和5年度公民館等職員研修受講生）
（当日発表は　同公民館主事　谷本 のぞみ 氏）

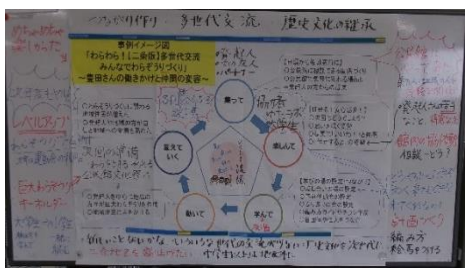
公民館での会話

「新しいことないかな…」
「なんとなくいろいろな世代の関わりが少ないね」
「二条地区を盛り上げたいよね」
「地区の歴史・文化を次世代につなげられたらな」

ある日思いをもった二条地区在住の若者が相談にキターーー

わらぞうりづくりを通して

多世代交流
つながりづくり
歴史・文化の継承



発起人（仲間）へのアプローチ
・公民館はいつでも伴走するよ！
・したいことを引き出し「いいね」と共感
・負担感のサポート（編み方ガイド作成、チラシづくり）
・仲間の思いを文章化し発信
・他団体とつなぐ（ユタラボ・つくし会・小学生・大学生）

人づくりを意識した事業の結果・成果
・公民館から具体案を出さず、「次どうしましょうか？」と聞きそれを肯定することで、主体性が高まった。
・地域の人も巻き込んでいった結果、二条地区外の場での活動につながっていった。
・仲間以外にも、わらぞうりの材料の藁の脱穀作業を手伝ってくれる人が現れた。

福原企画幹から発表に対してのコメント
　公民館として全体でやっている。良さは、「こちらから提案しない」こと。事業を計画するとき、やりすぎるとお客さんを生む。お客さんにしないこと、脇は甘くしておくことが大事。

１回目の話し合いでは、「３０人ぐらい来ても対応できる？」「そもそも教室に来てくれるかな」といった不安を、参加対象を３グループに分け開催することで対処することにした。
２回目の話し合いは、「教える人は発起人だけで大丈夫？」ということから、他の仲間も教えられるように集まって練習することになった。また、編み方を忘れたときのために、ガイドを作成することが決まった。
３回目は、「わらぞうりを作ったら持って帰りたくなるよね」から、手のひらサイズのキーホルダー型を作ることにし、合わせて絵馬を書いてもらい巨大わらぞうりにくくりつけて残すことにした。
開催後、小学生からは、「夏休み一番の思い出になった」、高齢者は、「懐かしかった」とそれぞれに楽しんでくれた様子がうかがえた。
地域の人には、これをきっかけに公民館に来てもらい、二条地区を一緒に盛り上げていってほしい。

発起人（仲間）の変容
・自主的に、仲間たちと巨大なわらぞうりや編み機を作った。
・１回目に準備が不十分だったという反省から、次の会は、自主的に材料をカットし準備した。
発起人の思いの変化
・思いはあるが、自分が前に出ていいのか、自信がないな。
↓
・発信したことに大勢の人が反応してくれたことが、自信につながった。
・地域への愛着も芽生えてきた。

事例検討「いいな！すごい！まねしたい！」「聞いてみたいこと」

・事前に計画を広げておいたのが良かった。
・いろいろな世代を巻き込んでいた。
・イベント終了後、新たなつながりができていた。
・対象をかえ、３回に分けて募集した。

Q.住民の声を引き出した手法は？
⇒普段から出入りされていた。声かけし、アドバイスを求める関係性づくり。
Q.発起人との話し合いは、公民館側は一人で対応したの？
⇒一人で対応しても、その後館で情報共有し、意見交換をした。

（発表一部紹介）

【演習】「自分にできることを考えよう！」

◇住んでいる(勤務している)地域の現状(良さ･課題)を付箋に書き出し、グループで話し合う

・高齢者が多い　・子どものことに関わろうとする人が多い
・自然が多い　・先頭に立ちたがらない
・「変わること」に抵抗大　・空き家が増えている
・学校と地域の連携密　・PTA層（女性）の参画が多い
・人があたたかい　・担い手がいない
・子どもが走り回れる場所が多い　・参加者が同じ顔触れ
・子どもが公民館に来る　・情報共有がうまくいっていない
・３０～４０代の男性の参画が少ない　・よい意味でおせっかい

◇地域が10年後どうなっているとよいかを付箋に書き理想の地域像を紹介し合う

・地域ぐるみの交流　・縁側的居場所
・楽しいことがたくさんできる場所　・自助、共助で動く自主防災組織
・外から新しいことが入ってくる　・平日放課後の居場所がある
・地域の人とオンラインでつながる　・野菜などを育て地域イベント
・地域活動を点から面に広げていく　・地域力が高まる
・小学校が地域の拠点に　・若者参画
・「この地域が好き」と言える人増　・Iターン者増

◇「理想の地域像」を実現するために何が必要かを考え、模造紙に書き込み、実際に取り組めそうなものを丸で囲む

子ども：接着剤
あいさつ運動　地域みんな知り合い　つなげる
子育て世代×シニア世代　子育てしやすいにつながる

子ども：子ども中心に考えるとアイデアが出て、それが結果や地域につながる
学校や家庭とは別の第３の居場所を　各地域に

食育：自給自足　地域の食材活用
住民に関心をもたせる

◇理想の地域像に向け、自分がやりたいことを書き紹介する

・子どもたちの活動により多くの大人に参画してもらう
・地域の中の学校という意識をもつ
・地域全体のつながりを増やすきっかけづくり
・公民館を一部改修し、楽しめる場所に
・子ども会復活　・移住者を増やす
・大人の居場所づくり　・PRできる地域にしたい
・参加者全員が発言できる　・自主防災組織の立ち上げ
・他世代の対話の場の充実　・地域を次世代につなげたい

（□の中は出た意見）

【ふりかえり】研修をふりかえって、思ったこと･感じたこと･これからに向けて考えたこと

・地域活性化とはあきらめないこと
・楽しむ　負担感をもつのではなく、達成感を求める
・地域みんなが知り合い
・あいさつ（知らない人にでもできる地域なので）プラスα
・仕掛けてみる
・子ども中心に考えるといろいろなアイデアが出てくる
・クイズ「１００人に聞きました」手法
・企画力・行動力を発揮
・見える化を進めて理解してもらい、意見を集め改善を繰り返す

【アンケート】　（一部抜粋）

・こちらから提案するばかりではなく、地域の人や子供のやりたいを引き出す必要があると感じた。（今は、こちらからお願いするような教室ばかり）
・改めて公民館がどうあるべきか考えさせられる時間となった。これからの仕事でなにか１つでも活用できたらと思った。
・ワークの時間、自分で考える時間とグループで共有する時間の両方が十分にできて良かった。それぞれのビジョンでつながる部分を発見できて面白かった。
・今日の講義を聞いて「伴走」というキーワードがとても心に残った。これは社会教育に限らず普段の生活においても意識するべき心構えだと思う。
・事例では、地域住民の方が主体性をもって参画しているのがわかった。